

月旬		管理作業	生育状況	栽培の要点
植付前		種いもの準備 畑の準備 植付け 除草剤散布 支柱立て 萌芽期基肥 中耕・覆土 除草剤散布 第1回目追肥 第2回目追肥 第3回目追肥 収穫	栽培準備期	1. 畑の選定 緑肥を組み込んだ輪作を基本とし、排水性の良い、肥沃で耕土の不快感畑を選定する。但し、緑肥の取組が難しい場合で根腐病の発生が問題となる場合は代替剤ユニフォーム粒剤を活用する。 代替剤（ユニフォーム粒剤）のメリット ①普通物で粒状の殺菌剤。 ②薬剤処理の被覆が不要。 ③施薬機によるトレンチャー耕と同時処理が可能。 ④消毒期間が不要で、薬剤処理後すぐに植付が可能。
4	上		植付期	2. 種いもの準備 3. 本畑の準備 （1）土壌改良資材、完熟堆肥を全面散布し耕起する。 （2）トレンチャー耕は植付予定 15 日前までに作業を終え、土を落ちつかせる。根腐病対策のユニフォーム粒剤の同時施用を行う場合は施薬機をトレンチャーに取付ける。 ※施薬機を用いたトレンチャー耕ユニフォーム粒剤同時施用に当たっての留意点 ・土壌くん蒸剤とは異なる施肥設計が必要。 ・本剤は殺菌剤であり、状況に応じて別途除草が必要。 ・耐性菌の発生抑制のため、連用を避ける。
	中			
	下			
5	上		植付期	（3）基肥は、基準量を萌芽時に施用し覆土する。 4. 植付け 5. 植付後の管理 除草剤散布、支柱立て、誘引、中耕、追肥 6. 収穫 7. 茎葉の処理 病気の蔓延を防ぐため、収穫前に茎葉等をほ場の外に出し、ほ場の衛生管理に努める。 9. 野ネズミの駆除 春掘り用の畑では、秋と春の2回の野ネズミの防除を行う。
	中			
	下			
6	上		茎葉伸長期	・本剤は粒径が小さいため、施薬機が植溝の真上に位置するように取付ける。 ・スムーズな吐出のためホースの曲がり进行をさける。 ・2連トレンチャーでは施薬機が2台必要。
	中			
	下			
7	上		茎葉繁茂期	※ユニフォーム粒剤同時施用の場合の施薬機取付の例 
	中			
	下			
8	上		成熟期・黄変期	
	中			
	下			
9	下		成熟期・黄変期	
	上			
	中			
10	上		成熟期・黄変期	
	中			
	下			
11	上		成熟期・黄変期	
	中			
	下			